

令和6年度 第2回白山市ミライ会議 【概要】

日 時 令和6年5月24日(金)14:00～15:00

場 所 美川小学校 2階ランチルーム

テーマ 【教育】 コミュニティスクール

出席者 9人〔美川小学校運営協議会委員、美川まちづくり協議会役員〕



◆地域全体で子どもたちの成長を応援 学校と地域が共に幸せに

(出席者①)

令和4年から、本校と蕪城小において先行して学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールがスタートしています。協議会は保護者やまちづくり協議会の方、コミュニティセンター長、児童館、こども園、学校など10名からなり、学校と地域、保護者が一体となって子どもたちの成長を支える取り組みをすすめています。

本校では、「児童への学習支援」、「学習環境整備」、「安全見守り」という大きく3つの取り組みが行われています。コミュニティスクールの特徴として、地域の様々な方々が学校教育に参加し、地域全体で子どもたちの成長を応援していただいています。それが子どもたちの安心感を生み、問題行動などを未然に防ぐ役割も果たしていると思います。

また、美川まちづくり協議会の方と一緒に、空き家の活用という地域課題に、子どもたちも積極的に取り組んでいます。この地域連携がスムーズにいくよう、協議会に出席し、学校経営ビジョンやコミュニティスクールについて説明するなどしています。

(出席者②)

コミュニティセンター長として美川まちづくり協議会事務局のほか、美川小学校学校運営協議会のコーディネーターも務めています。

学校・家庭・地域が連携、協働し、社会全体、美川全体で子どもたちの豊かな成長を支えていくことが、コミュニティスクールの大きな目標の1つだと思います。

美川まちづくり協議会は、令和4年3月に設立し、コミュニティ組織としていち早く、4部会とコミュニティスクール、学校をつなげた形をとりました。子どもたちは、地域の人たちと触れ合い、一緒に地域課題を考えていく中で、さまざまな価値観に出会い、成長していく。美川が大好きな子どもたちが育ち、10年20年後に地域の担い手となっていく。地域の人たちも、子どもたちと関わりながら、これまでの経験を地域に還元することで、生きがいを感じられる。美川全体で子どもから高齢の方まで、すべて一体となって豊かに子育てでき、地域と学校が共に

幸せになっていくことを期待しています。

コーディネーターの役割は、まちづくり協議会とコミュニティスクールをつなげることだと思います。学校経営ビジョン、学校の思いを協議会で共有し、地域と学校が同じ方向をむくことで、子どもや地域の成長があるのではないのでしょうか。この機会を生かし、開かれた地域、開かれた学校につながるよう、美川まちづくり協議会は、美川小学校の強力な応援団として地域で見守っていきたいと思っています。

◆共に取り組む空き家問題 大人が楽しみ頑張っている姿を子どもたちにも見せたい

(出席者③)

私は学校運営協議会に参加し、応援団の一員として活動しています。3年前の発表会で、子どもたちが美川の空き家を活用する提案を聞き大変感動し、大人としても何かしなくてはいけないという思いから、昨年「みかわ未来プロジェクト」を立ち上げました。

美川の名士・紺屋三郎兵衛の流れをくむ旧武田家の空き家の利活用を考えるにあたり、子どもたちと一緒に蔵造りの家を見学したほか、町内の方にも参加していただき、清掃活動も行っています。授業に参加し、子どもと混ざって意見交換するなど、プロジェクトメンバー全員が、楽しくてしょうがないと、生き生きとしています。

ただ、予算をどうしようかと悩ましく、ちょっと活動が止まっています。市から援助してもらえないか状況を聞いていますがかなり難しそうで、クラウドファンディングという形をとるとしたら、方々へ広報しなくてはいけない。資金調達の面で課題もありますが、継続して取り組むことが成功への近道だと考えています。大人たちが頑張っている姿を子どもたちに見せたい。金銭面について子どもたちに心配させることのないよう、市長の力添えをいただきながら、活動をすすめいきたいと思っています。

◆コミュニティスクールで生まれた子どもたちとのつながり 触れ合う喜びと見守る自負

(市長)

コミュニティスクールの導入によって、子どもたちが学校でどんなことをしてどんなふうに住生活しているか、コミュニティスクールが始まる前と後で学校の見えやすさは変わってきましたか。

(出席者④)

私が所属する「美川女性の会」では、ミシンやそろばんの補助などの学習支援を行っています。学校の外でも触れ合いが多く、学校帰りやおかえり祭りの時にも台車の上から手を振ってくれたりします。子どもたちは地域の宝です。健やかに美川のまちで育てほしいと願い、この活動に参加しています。学校に関わることがなかった時は気付きませんでした。子どもたち一人一人が目を輝かせて「ミシンのおばちゃん、そろばんのおばちゃん」と声をかけてくれる、優しい子どもたちに育っています。私たちからも、子どもたちに「家でお手伝いしてる？」などの声かけをするなど、地域で見守り、応援しているという自負があります。

遊びの途中や学校の帰りに、自宅の車庫にいる燕を見に来るなど、子どもたちとの触れ合いがうれしくて、地域中で皆がそのように触れ合えるということは素晴らしいことだと思います。

◆地域と学校の結びつき 家庭にも伝わるような取り組みを

(市長)

子どもたちが地域の人々と触れ合うことは、本当に大事なことだと思います。子ども自身が地域で育てられている実感を得られるものとして、コミュニティスクールという取り組みが生かされているようで大変うれしく思います。

(出席者⑤)

一保護者として意見を述べさせていただきますが、美川は、以前から地域で子どもを守り育てる土壌があり、コミュニティスクールが始まっての変化を子どもたちは実感していないようです。この取り組みが形になっていくのはこれからだと思います。

各家庭に戻ると、保護者は、広報やお便りで知るくらいで、地域の人たちと学校との関わりを見ていません。地域と学校と家庭、特に家庭には、もっと間口を広げてあげることが必要かと思います。昨年、小学校の保護者の消防団員を中心に、学校で「引き渡し訓練」を行いました。家庭と学校、地域の関係強化を目的に開催し、参加した保護者からは、その場で「こんなことまでしてくれるのか」と感謝の言葉もいただきました。地域のいろいろな団体は、学校だけでなく、家庭にも伝わるような活動を取り組んではどうでしょうか。こうした訓練等は、他の地域でもできると思うので、先行事例としてみていただければと思います。

◆空き家問題への取り組み「子どもが参加する権利」を体感できる場

(市長)

昔、金沢で廃校となる学校の跡地利用について、子どもたちがアイデアを出し合い、公園にしようという取り組みがありました。今回の空き家の活用についても、そういうことを考える機会を子どもに与えてくれたことがうれしい。子どもたちのこの姿を見て、地域の方や保護者はどのような感想を持ちましたか。

(出席者⑥)

私は、小学生がプレゼンをする場にもいましたが、内容もプレゼン方法も素晴らしく、もっと多くの人に見てほしいと思いました。子どもたちは、大人にしっかりと聞いてもらえることで認められたと感じ、誇りを持たたような顔つきでした。私は子どもの権利委員会にも参加していますが、「子どもが参加する権利」を実際に体感できる場だったと思います。

(市長)

今年、ジオパークの取り組みを、各学校でやっています。学校でどのような勉強をしているのか、保護者や地域の方は分からないですね。

(出席者⑤)

(ジオパークについては)子どものほうが詳しいと思います。

(市長)

子どもからの発信は、どれだけ大人に伝わるか、今回の空き家の話は大変参考になりました。ジオパークは、人の営みや地域の産業、ものづくりも、全部含んでいて、子どもたちはいろいろな学習をしています。そういったものを発信できたらいいと思います。

(出席者⑦)

この学校のコミュニティスクールは、今年で3年目だと言われましたが、今年、金沢から変わってきて、こんなにうまく機能していることに驚きました。

その理由として、地域全体で子どもを育てる土壌があり、美川まちづくり協議会による一体感や仲間意識があり、そしてコーディネーターの優れた手腕があり、これらがうまく組み合わさっているためだと思います。学校現場は、大変助かっています。本物に触れる実践的な学びと、感性豊かな質の高い教育を提供できていると思います。

◆学校、保護者、地域のつながりを強化し、地域の未来を託す存在に期待

(市長)

学校には、子どもが成長している様子を地域に発信してほしい。「学校だより」などでは出していると思いますが、実際の子どもの姿や活動を発信してほしい。先ほどの空き家のプレゼンのように、自分たちの考えをどんどん子どもたちに発信させ、その成長を学校、保護者、地域の方と共有してもらえたら、将来的に子どもたちが美川のまちをどのように活性化させようか、考えてくれるようになるのではないかと思います。いかがでしょうか。

(出席者③)

実際に、今子どもだと思っていた子たちが1人前になるころには、その彼らが美川を引っ張っていくこととなります。大人たちが一生懸命に取り組む姿が子どもたちを成長させるのだと思う。先ほど言われたように、子どもたちに「ミシンのおばちゃん」と呼ばれるような地域の大人たちが増えていけば、もっとこのコミュニティスクールの意味も出てくるんじゃないでしょうか。自分にとっても、いろいろな経験をさせてもらえる場です。

(出席者⑧)

これまで2回程、6年生の授業に父兄でもないのに参加させていただきました。何十年ぶりに学校の授業を見て、今の子どもの、物怖じしない大きな声で発表する姿がうれしかったです。ジオパークについても、子どもたちに投げかければ、いろいろな答えが出てくるんじゃないかと期待しています。また宿題の内容を変えれば、まだまだ良いアイデアが出るのでは。子どもは、あっという間に大人になっていきますから、継続し息の長い活動を。今の子どもたちは立派です。

(市長)

一昨年、白山市で開催したジオパーク全国大会では、子どもたちが他県から来る大人たちの前で、堂々として発表してくれました。子どもたちは、学校で日常的に発表する機会があり、

慣れているのだと思います。しかし、そのような授業をするには、先生方の大変な苦労があるため、地域の支援があれば助かります。

(出席者⑨)

過去に、美川小学校育友会の会長を務めていました。当時、地域と一緒に子育てをしていくということで、地域と協力し盆踊り大会やバザーを開催し、子どもたちやその家族、地域住民が参加し、地域の結びつきを深めていました。しかし、最近は親の協力が得られず、地域行事が難しい状況にあることを残念に思っています。

昨年から、青年団や美川おかえり祭りを守る会の人たちが、子どもたちにラッパや旗、扇を教えてくれていて、祭り当日に、駅前で披露しています。地域の未来を担う子どもたちが、地域の祭りに参加し、多くの町民に見てもらえる機会があることは大変良いことだと感じました。

保護者以外でも、地域住民が授業の様子を見たりする機会があってもいいのではと思います。難しいかもしれませんが、地域住民や保護者が学校に出入りしやすい、開かれた環境が必要なのではなでしょうか。安全対策を講じつつも、地域と学校のつながりを強化することが重要だと思います。

◆地域独自の川とのふれあいを取り入れたカリキュラムを

(出席者⑤)

ユネスコ世界ジオパークに認定され、1年が経ちました。ジオパークのテーマである、水の旅の石の旅を、子どもたちに分かりやすく伝えるため、例えば川の駅や水の駅といったような、地域独自の川とのふれあいを取り入れたカリキュラムがあってもいいのではないかと思います。水の旅や伏流水について、ストーリー性がある子どもや家庭にも理解しやすいものがあれば、ジオパークの授業に利用できると思います。河川敷も、ジオの学びの場として活用できたらいいのでは。川北町では「水の楽校(みずのがっこう)」という授業で、自然災害について理解を深める取り組みが行われているようです。

(市長)

子どもの学習環境をどう整えるかということだと思います。白山市の地盤が固いのはなぜか。山の石は尖っているけど、河原の石が丸いのはなぜか。本来、子どもたちが不思議に思って学ぶという環境を作っていかななくてはならない。今年の夏、手取川ダムが満水して15%ほどまで貯水量が減ったけれど、白山市内ではほとんど水の心配をしなくてよかった。それはなぜか、子どもたちへ問いかければ、きっと疑問を持つと思います。ジオパーク学習支援員や地元の方などに入ってもらって、コミュニティスクールでそのような学習ができれば素晴らしい。参考にさせていただきます。

◆コミュニティスクールで、子どもも大人も人生を豊かに

(出席者②)

最後に、コミュニティスクールのもう1つの大きな役割として、先生方の働き方改革があります。地域にできるところは地域が担い、多忙な先生方に少しでも子どもたちと向き合う時間や

教材研究の時間を確保してもらい、子どもたちと一緒に学べる時間や場ができればいいと思っています。コミュニティスクールは子どもも大人も、人生を豊かにしてくれる。期待を込めて、コーディネーターを務めてまいります。

(出席者①)

例えば、地域学習において、ゲストティーチャーの協力で先生方の負担が軽減され、朝のおはようボランティアや多くの見守り隊が子どもたちの登下校を見守ってくれているので、先生方が校外に立たなくてもすみ、助かっています。コミュニティスクールのおかげで、地域の人たちの協力によって子どもたちが育っていることを忘れないよう、校内に掲示したり、先生方へも話したりしています。昨年からは、コーディネーターの方が「コミュニティスクールだより」を作成し、活動や地域の人たちの思いなどを紹介してくれていて、先生方もそれを読んで、感謝の気持ちを忘れないようにしています。

そして、やはり持続可能なものにしていかなくてはならないと思っています。